

オリンピックから広がる 多様性への配慮

誰が見ても分かるように

国際共通の言語(マーク)



言葉・文化・宗教等の違いは、1964(昭和39)年の東京大会でも問題になりました。

会話でコミュニケーションが取りにくい外国の方に、競技や会場案内など、文字が読めなくても伝わるよう考案されたのが「ピクトグラム(絵文字)」です。

日本では同大会で使われたことがきっかけとなり、1980(昭和55)年以降、日常生活のさまざまな場面で使われるようになりました。



今も身近にあるピクトグラム



多国籍の人が関わるからこそ
言葉のいらない
ピクトグラムが生まれたんじゃ



このピクトグラムをデザインしたデザイナーたちが、社会に還元するために著作権を放棄したことで世界中に広がり、オリンピック・パラリンピックにおいても開催地域によって形を変え、現在も使われています。

次のオリンピック・パラリンピック—— 東京2020大会がめざすもの!!

POINT

- 全員が自己ベスト
- 多様性と調和
- 未来への継承



多様性とは
さまざまな種類や傾向があること
変化に富むということじゃな

具体的には
さまざまな人種や個性や考え方が
あるということかのう



「色々な人がいて
良いじゃないか」
ということじゃ!



多様性が大切にされていない
ということは
「人権が守られていない」
ということなんじゃよ